



## 【地上最高の大喜びの良い知らせ】

聖書:ルカの福音書2章8-14節 / 暗唱聖句:マタイの福音書1章21節

説教者: 鄭南哲牧師

メリークリスマス！今日もクリスチャンプレイズチャーチのクリスマス感謝礼拝にお越し下さったみな様を心より歓迎し、祝福をお祈り申し上げます。今日はクリスマス礼拝としてささげています。

## &lt;御言葉の予言のとおりこの地に來られたイエスキリスト&gt;

イエスキリストの誕生はある瞬間突然、起こった出来事ではありません。イエスキリストが聖書の予言とおりに(ミカ書 5:2:“ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。”)ベツレヘムというところで生まれることを知らされます。聖書をとおして神様はイエスキリストの誕生(イザヤ書 7:14「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。」)と苦しみ、復活、昇天、再臨についてもすべて予言され、そのとおりに行われることでした。イエス様は聖書の予言のとおりベツレヘムで生まれますが、その過程を見ると神様の緻密な導きを感じることができます。偶然のように見えるすべてが、実際は全宇宙と歴史をおさめる神様の繊細な御手に置かれて動かされることがわかります。

これは今日わたしたちの人生にも同じようにあらわれます。みなさんは今年のあらゆる時間、生活などが神様の御手にあったことを信じますか。今まで自分たちの人生が神様の計画と神様の導きによるものだったと告白できますか。これからも自分たちの人生を神様が導いてくださると信じますか。我らの生き方において偶然はありません。あらゆるものが神様の目的とおりに動かされるのみです。神様の民である我らがあう様々なことはかならず神様の導きにあって起きる事とそしてこれらはかならずすべてが働いて益となることをもう一度信じていきましょう。

クリスマスといえば、こういう事が思いうかべます。‘クリスマスツリー’、‘クリスマスプレゼント’、‘クリスマスケーキ’、‘クリスマスキャロル’、‘サンタクロース。’などを教会に通うクリスチャンたちじゃなくても、国を超えて、民族を超えてみんな興奮し、大喜ぶ時期になります。

なぜクリスマスには昔から今日に至るまでみんなが大喜ぶのでしょうか。どうしてクリスマスを迎える我々にクリスマスは大喜ぶべき日であるのでしょうか。今から2014年前、イスラエルの小さな町であるベツレヘムの羊飼いたちに天使たちがあらわれてすばらしい知らせを伝えました。今日の本文10節に、“御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに來たのです。」”

ここで‘すばらしい(大)喜びの良い知らせ’を英語の聖書では‘the good news’だと訳されています。これが‘福音’です。なので、クリスマスは神様が地上の人類にすばらしい喜びの良い知らせを下された日である事が分かります。

それでは、その喜びの良い知らせは何ですか。

1. 我々を救うためにメシヤなる救い主がお生まれになったからであります。

愛するみなさん!クリスマスはなぜ人類にとって一番嬉しい日であるのでしょうか。イエス様がお生まれになったのがなぜ我々に大喜びの良い知らせですか。今日の本文11-12節を見ましょう。

“きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。”

それは‘我々のための救いであられるイエスキリストがお生まれになったから’です！

それはイエス様が私たちの救い主だからです。2014年前、ダビデの町、つまり、ベツレヘムに來られたみどりごイエス様は私たちの救い主として來られました。イエス様がお生まれになる前天使ガブリエルがイエス様についてこう宣べました。

“マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救って下さる方です。”  
(マタイの福音書1:21)

“神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。”(ヨハネ3:16)

イエスという名前から我々はその方の役割を知ることができます。イエスという名前の意味は“神様が救ってくださる。”という意味です。実際歴史上みどりごイエス様にだけ“イエス”と名づけられたわけではありません。すでに旧約時代からイエスという名前を持っていた人がとても多くいました。代表的にヨシュアという名前は発音がすこし違うだけで、イエスという言葉と同じ意味を持っていました。イエス様の時代にも当然イエスという名前をもっていた人々も多くいた可能性もあります。いったいなぜイエスという名前が多くあったのでしょうか。それはメシヤを待ち望んでいた人々たちがたくさんいたからです。しかし、人々があれほど待ち望んでいた主人公がついには來られたのです。その前も、イエスという名前を持っていた人々がたくさんいましたが、彼らも救いに対して待ち望んでいたイエスたちであって、やがてこのイエスキリストこそが罪から人類を救う救い主として來られたのです。

イエスキリストが罪人である私たちの救い主であります。2014年前、ダビデの町、つまり、ベツレヘムに来られたみどりごイエス様は私たちの救い主として来られました。イエスキリストのキリストの意味は‘あぶら注がれた方’です。旧約時代に祭司長、預言者、そして王を立たせる時はかならず、頭にあぶらを注ぎました。イエス様は私たちの罪のためにご自分の体を十字架にいけにえとしてさげられた我らの祭司長であられます。そして神様の御言葉を私たちに教え、天国の希望と未来のことを予言された預言者であります。そしてイエス様は私たちを罪から解放させ、神の平安を与え、永遠の死から永遠の命の神の御国に導いてくださる永遠の王であられます。ですから、イエス様はメシヤなる我々の救い主です。

イエスと言う名前の意味は‘我々を罪から救い出してくださる救い主(メシヤ、キリスト)’という意味です。イエス様は我々を罪から救うためにこの地に来られました。イエスキリストはすべての民、全人類の救い主です。あらゆる部族と身分と、人種を乗り越えます。クリスマスは我々を罪から救うために神様が人間の姿で現れた日であります。ですから、クリスマスが一番大切なことはイエス様が我々を罪から救うためにこの地に来られたと言う事実です。ですからこれがまさに我々に大喜びではありませんか。

ところが、この来られた救い主なるイエスキリストは当時のイスラエルの人たちが期待していた武力でローマ帝国を打ち破るメシヤの姿ではありませんでした。我々を救うために来られたイエスキリストはその救いの御業を成就するために、ご自身を惜しみなくお与えるために謙遜な姿として来られたのです。

ピリピ人への手紙 2章 5-11節を一緒にさがして読んでみましょう。

「2:5 あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。2:6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、2:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、2:8 自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。:10それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、:11すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」

マルコの福音書10:45「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」宮廷ではなく、普通の庶民でさえ使わない、馬小屋の飼料おけに、人間の姿で、しかも一番弱いみどりごの姿でこの地に来られた謙遜な救い主！イエスキリストでした。

クリスマスの原語の意味もそうです。‘キリスト(Christ)+敬拝(けいはい),ミサ(Mass)’の合成語(ごうせいご)です。つまり クリスマスという日は‘来られた救い主イエス様に感謝と喜びを持って謙遜に礼拝を捧げる日’であるという意味であります。我々の罪から洗い清め、救い出して下さる主イエスキリストが謙遜に来られた日である、クリスマスに我々も今年ももう一度さらに謙遜に謙って主に感謝し、礼拝を捧げる日としてクリスマスを迎えますように切にお祈り申し上げます。

## 2.お生まれになったイエスキリストは私たちの希望であるからです。

なぜイエスキリストがお生まれになった事は我々にすばらしい喜びの良い知らせになるのでしょうか。

そのイエスキリストが生まれたことは私たちに永遠の希望を与える事になるのですばらしい喜びの知らせになります。

私たちにとって一番のプレゼントです。私たちがお互いに取り交わすプレゼントというのは実際、時間がたてば、ふるくなり、変わったり、なくなってしまうものです。どんなに美しいきれいな花束だとしても、時間がたてば、枯れて、臭くなり、ゴミ箱に捨てられます。

しかし、神様が私たちに与えるプレゼントは永遠に変わらないプレゼントです。昨日も今日も永遠まで同じです。ですから、イエスキリストは私たちの希望であると聖書は言われています。

“どうか、私たちの主イエス・キリストと、私たちの父なる神、すなわち、私たちを愛し、恵みによって永遠の慰めとすばらしい望みとを与えてくださった方ご自身が、あらゆる良いわざとことばとに進むよう、あなた方の心を慰め、強めてくださいますように”(第二テサロニケ2:16)

オー・ヘンリが書いた [最後の葉(The least leaf)]という有名なお話があります。その内容は、ニューヨークグリニチビルジのあるアパートに無名の女流画家だったジョンジーがひどい肺炎で心身ともに苦しんで疲れ切り、人生に半ば投げやりになっていました。彼女は生きる希望も失い、友達からの励ましもむだでした。自分が横になっていたベットの窓の外側から見えるツタの葉っぱが全部、落ちると自分のいのちも終わるのだと考え込んでいました。ところが同じアパートの2階に住んでいる親切な老画家(ろうがか)がこの事情を知って壁に葉っぱ一つを描がきます。その葉っぱはひどい雨、風にもよく耐(たえた)ほんものの葉っぱみたいにみえ、ジョンジーに生きる希望を与えることによって、彼女は死の危機を乗り越えることができたという内容です。一人のいのちが死の敷居(しきい)からふたたび生かされたということは希望があったから可能だったという話です。今日聖書をとおして2014年前、この地に来られたイエスキリストこそが罪と咎で希望もなかった私たちに永遠の希望を与えてくださる方であることをあきらかに宣べ伝えられます。

## 3.イエスキリストは我々とともにおられるインマヌエルの神であるからです。

なぜイエスキリストがお生まれになった事は我々にすばらしい喜びの良い知らせになるのでしょうか。我々の救い主であり、永遠の希望を与えてくださるそのイエスキリストがこの世に来られてから、今も、これからもいつまでも我々とともにおられる

から大きな喜びの良い知らせになるのです。イエスキリストは今から2014年前、ベツレヘムやイスラエルだけに限っておられたのではありません。クリスマスの時だけおられる方ではありません。それとも私たちに何か問題があるときだけ一緒におられる方ではありません。勘違いしないで下さい。イエスキリストは今もなお私たちとともにおられる方です。これがまさに大喜びの良い知らせなのです。自分にとってどんなに大事な宝物だとしてもいつまでも自分とずっと一緒にはできません。一年、一年生きると言うことは愛する家族とも、親、子供たちもいつかは離別する日がそれほど近づいてきたと言う意味でもあるでしょう。しかし我らの主イエスキリストは永遠に私とともにおられ、さらに絶対的に必要な方ですので、一番すばらしいプレゼントになるのです。

聖書は言っています。マタイの福音書1章 23節に、「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)

ですから私たちが信じているインマヌエルのイエス様は教会内で礼拝し、賛美する時だけではなく、時には私たちが罪の座に座っているときも、私たちのため悲しみます。職場でも、汗をかけながら働く時も、家で皿洗いをし、家族をかえりみる時も、運転をするときも、さびしく、苦しんでいるときも、うれしいときや感謝する時もいつもわたしたちとともに今も生きておられる神です。主は我々を絶対にはなしません。いつも私たちのそばにいて私たちに勇気を与え、励ましと知恵と力を与え、罪の鎖から開放し自由にさせてくださる神様であることを信じましょう。

#### 4.イエス・キリストは真の平和の王である事はすばらしい良い知らせであります。

愛する信仰の家族のみなさん! 旧約聖書は、神様の名前の中で“ヤフェシャロム”という名前を紹介します。これは“我らの平和なる神様”という意味です。新約聖書エペソ 2 章 14 節ではイエスキリストをこのようにあらわします。“キリストは私たちの平和であり。”

厚生労働省の発表によると、昨年2013年の日本の人口によると、24万4千人ぐらい記録的に人口が減少になったと言われています。つまり、昨年約103万1千人の新しい命が生まれましたが、死亡者数が前年より1万9千人が増加された127万5千人ぐらいだった。死亡者の増加は世界第二戦争の時より、死亡率が上まったようです。昨年も、いままなお様々な災い、やまい、交通事故、事件、災害などによって多くの人々が召されたし、今も続くでしょう。死と言うのは老若男女を問わず、貧富の貴賤を問わず、時と場所を問わず、予告もなしにやってきます。それにもかかわらず人々は死と言うのは自分とは関係ない他人事のように考えたり、死について考えようとしません。人生の死から、罪から、恐怖から、不安から、嵐のような様々な問題からまことの平安と平和を必要とし、切に願っているのではありませんか。こんにち人類に一番必要であり、大切なのはなんでしょうか。それは平安であり平和です。

クリスマスを迎える世界の人々は世界の平和を切に求めています。私たちがそうではないでしょうか。神様は人類の一番切実な願いは平和であることをご存知でした。そういうわけでひとり子イエスキリストをこの世に送ったのです。しずかな夜空で天使たちが叫んだように、イエスキリストがこの地に來られたのは“天には栄光、地には平和”そのものだったのです。2014年が過ぎた今でも全人類にイエスキリストの到来は一番の喜びの良いお知らせとなっています。

“ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。”

(ローマ書5:1)、第一コリント人への手紙 14:33 - “神が混乱の神ではなく、平和の神だからです。”

エペソ人への手紙 2:14 “キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし。”

コロサイ人への手紙1:20 “その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、ご自分と和解させてくださったからです。地にあるものも、天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。”

そのイエス様が今日私たちにこのように言われます。“わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。”(ヨハネの福音書14:27)

クリスマスはこの世の何よりもかえがたい尊いプレゼントが神から人類に与えられた日です。天使のように私たちが伝えましょう。“恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに來たのです。今日ダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。”(10-11節)

神様がクリスマスに私たちにくださった一番のプレゼント、地上一番喜びの良い知らせつまり私たちが罪の問題が赦され、救うために來られたイエス様は私たちに永遠の希望を与え、インマヌエルとなっていつも私たちとともにおられるお方であり、そのイエス様がまことの平安を与え、平和を作って下さる神であるそのイエスキリストのみに謙って礼拝を捧げるべきであります。また救い主イエスキリストに感謝と喜びを持ってこの素晴らしい良い知らせを今も知らない多くの人々に分かち合える**今年のクリスマスの時**となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します！

今年の降誕のクリスマスの季節！ イエスキリストから与えられる真の救いの恵みと平和が今日もキリストのみを信じ、受け入れ、慕い求める愛するみなさん一人一人の人生の上に、そして、我々の家庭の上に、クリスチャンプレイズチャーチの集っているすべての人々の人生の上に豊かに与えられますように主の御名によって祝福します。アーメン！